

【氷見市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」の内容等には、子供たちの資質・能力を育成することが求められています。

「個別最適な学び」の実現のため、一人ひとりの児童生徒の実態に応じた学習計画に基づき、児童生徒が1人1台端末を通じて、場所や個人の資質、環境にとらわれず、個々の理解度や学習ペースに合わせた学びを目指します。

「協働的な学び」の実現のため、1人1台端末を通じて他の児童生徒や地域住民と交流することにより、児童生徒が他者の多様な考えに触れ、自己の考えを広げ高める学びを目指します。

また、氷見市では、氷見市教育振興計画の「ふるさと氷見を愛し 次代を担う人づくり」を基本理念に、「生きる力を育み、次代を担う人づくり」を進める学校教育の充実を目指しています。

これらの3つの目標の実現に向けて、ICT 教育を推進します。

2 GIGA 第1期の総括

氷見市では、GIGA スクール構想に先駆けてタブレット端末を957台導入していました。令和2年度にはGIGA スクール構想の実現に向け、1,994台の端末を導入し、市内全ての児童生徒の端末と通信ネットワークを整備しました。

また、教員による ICT 活用のための研修会の充実を図るとともに、各学校に ICT 教育推進委員を配置したほか、大学教授や関連企業等の講師を招聘して ICT を活用した研修会を実施してきました。定期的に研修を重ねることで、教員の関心が高まり、指導力も向上してきました。

さらに、端末やネットワークの不具合に即時対応できるように、各学校から委託事業者と直接連絡（サポートメール）ができる GIGA スクール運営支援センターを設置したほか、各学校に ICT 支援員を配置しています。

いかなる状況においても、全ての児童生徒の学びをとめず、保障するため、感染症等による学級・学年閉鎖の際には、端末の持ち帰りを実施しました。自宅にネットワークが整備されていない児童生徒については、モバイルルータの貸出しをしています。

一方で、学校や教員によるタブレット端末等の活用頻度には差があるため、教員の意識や ICT 活用指導力の更なる向上が求められています。また、タブレット端末の性能による容量不足やネットワークトラブルも見受けられたほか、学校内でのみタブレット充電保管庫による端末の充電を行っているため、端末の家庭への持ち帰りに支障が生じて

います。

3 1人1台端末の利活用方策

ICT 支援員の配置を継続し、市内・校内研修会を定期的に行い、タブレット端末を日常的に活用できるよう、教員の ICT 活用スキルの向上を図ります。児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」において、1人1台端末を積極的に活用していきます。

市内の教員が、一層情報共有できるよう教育総合センターのHP内にある『まなDX』を充実させていきます。

不登校児童生徒や教育支援センターに通学している児童生徒や、特別な支援を要する児童生徒に対し、「リモート授業への参加」「課題等のオンライン送付」「外国人児童生徒に対する学習活動支援（翻訳機能等）」「障害のある児童生徒への支援」等、多様な場面での活用を検討します。